
日本産業技術史学会第32回年会テーマセッション報告

「日本の工学教育と産学連携」

2016年6月25日 於：大阪市立大学・梅田サテライト

産学連携あるいは産学協同というと、これまで批判的言説のほうが強調されがちだった。批判的な側の意見の多くが1960年代を中心としてマスコミで取り上げられたのに対し、肯定的な側の意見が政府の答申や各種経済団体の報告等で述べられてきたのもその一因だろう。しかし、我が国の産学連携は大学の歴史とともに古く、科学技術のあり方だけでなく、大学での教育研究も大きく左右してきた。今回のテーマセッションでは、産業技術史の立場から産学連携の時代的変遷とそれが我が国の教育研究体制に及ぼした影響について考える。

軍官産学連携の戦前・戦中・戦後……………沢井 実
大学工学部教員と産学協同（1951-1969年）……………夏目賢一